

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	福祉施設小委員会	主 査 名：鈴木 義弘 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (施設計画運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：笥 淳夫
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p><設置目的></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設の現状課題整理（現行の制度と施設の活動実態のずれなど）、先進事例研究および関連文献研究などにより、新しい展開（地域密着、小規模化、多機能化など）を検討する ・施設環境づくりに関する実践的研究とその普及 <p><各年度活動計画></p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 国内外の福祉施設の先進事例研究 ② 現行施設制度・計画技術・方法論に関する問題点の抽出 ③ 建築と福祉サービスの接点に関する協議 <p>2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 先進事例研究に基づく新しいニーズの解明 ② ビルディングタイプを超えた福祉環境構築の理論化 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：鈴木義弘（大分大学）、幹事：橘弘志（実践女子大学）、三浦研（大阪市立大学）、松田雄二（お茶の水女子大学）、委員：加藤悠介（豊田工業高等専門学校）、浜崎裕子（久留米大学）、山田あすか（東京電機大学）、巖爽（宮城学院女子大学）、田中正敏（福島県立医科大学・環境健康オフィス）、二井るり子（二井清治建築研究所）、石垣文（広島大学）、松原茂樹（大阪大学）、森一彦（大阪市立大学） ※、藤田大輔（岐阜工業高等専門学校）※、谷本裕香子（東洋大学）※：以上 15 名（※は昨年度公募委員）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>1) 福祉転用のための計画技術開発 WG（メンバー数：8 名） 2012 年「空き家空きビルの福祉転用」出版後、同研究会を 2 回開催したが、社会的な関心・ニーズが極めて高く、加えて、福祉転用に関わる課題も多様で幅広いことも明らかとなったため、制度や技術を包括的に議論する必要がある。特に、昨今問題となっている劣悪な福祉転用を排除し、優良な事例が増加していくための仕組みを早急に整備せねばならない。また、北欧をはじめとした海外の事例研究も不可欠であると考えられる。これらを実現するため、関連する制度の洗い出しや工法・安全性能確保などについての計画技術の確立・開発を行い、その成果を研究会の開催などを通じて広く発信することを目的とする。</p> <p>2) こども施設環境情報収集 WG（メンバー数：9 名） 本WGでは、これまでに既往研究のレビューや見学会・研究会を通して、1) こどもの施設の体系と経緯を整理し、2) 環境設定の実践例を挙げつつ望ましい環境づくりのあり方を検討してきた。この成果をもとに、①こども施設の体系、②こどもの成長・発達の環境設定の実践例集、③こども施設の事例紹介による環境づくりの解説、を内容とする書籍を近刊予定であるが、政府による「総合こども園」の提唱と頓挫に見られるように、こども施設環境の将来像は依然として試行錯誤を繰り返しながら判然とせず、これからの施設計画を展望し、計画論を確立するための基礎的な情報収集を行い、研究会の開催などを通じて成果を広く発信することを目的とする。</p>	
2015 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス : http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/j-000/j200-12/j250-12.html

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会 承認企画	<p>1. 6/6：公開研究会「こどもの環境づくり」（中央ながかみ保育園・静岡県浜松市）参加者数68名／6/5：見学会「ながかみ保育園」参加者数9名、6/6：見学会「中央ながかみ保育園」参加者数34名</p> <p>2. 2/27：公開研究会「空き家・空きビルの福祉転用～建物所有者にとっての価値向上と今後の促進に向けて～」（建築会館会議室）参加者数 48名</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得ら れた成果との関係）	<p>1. 公開研究会2件と見学会の開催は、活発な活動の成果を挙げたものと評価している。その背景は、これまでの小委員会の到達点を迎えた活動と、新規の段階を迎えた活動が重なったことによるものと考えている。</p> <p>2. 「こどもの環境づくり事典」刊行とこれに関わる公開研究会・見学会開催により、「こども施設環境情報収集WG」は新しい段階を迎えた。</p> <p>3. 既存建物の福祉的利用を進めるために設置した「福祉転用のための計画技術開発WG」において、次の出版企画を進めている。またこの取り組みは、科学研究費補助金にも採択され、次の展開に大きく踏み出すこととなった。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 福祉施設小委員会として発足から7年間目で、活動の方向性検討と体制準備がととのい、運営が軌道に乗ってきている。刊行予定の3件が完了し、新規活動に向けた協議をすすめる必要がある。</p> <p>2. 特に、委員が全国を網羅している特徴を生かして、各地域に密着した福祉施設の事例収集とその研究展開を進める。</p> <p>3. 福祉施設の事業者や行政担当者との領域横断的な情報交換の場を引き続き拡充することも必要であり、その一助としてHPをさらに充実させ、委員会活動の内容を広く公開する。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。